

2023年度 第3四半期決算報告

地球に提案だ。



挑戦の先に答えはある。

ZEON

2024年1月31日
日本ゼオン株式会社

2024年1月1日に発生いたしました「令和6年能登半島地震」
において亡くなられた方々のご冥福を謹んでお祈りするとともに、
災害に遭われた方々や関係者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

一日も早い復旧、復興をお祈りいたしますとともに、当グループも
微力ながら、事業活動を通じ復興に貢献して参る所存です。

P.3	総括とセグメントの概況
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.6	業績サマリー（全体）
P.7	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2023年度 事業環境
P.27	2023年度 業績予想
P.28	2023年度 配当金予想

【総括】

- ◆ Q3連結実績は対前年同期で増収減益、対前期で増収増益
- ◆ Q1-Q3連結実績は市況低調の影響を受け、対前年同期で減収減益
- ◆ 能登半島地震の影響および直近の状況を精査し、業績予想を下方修正

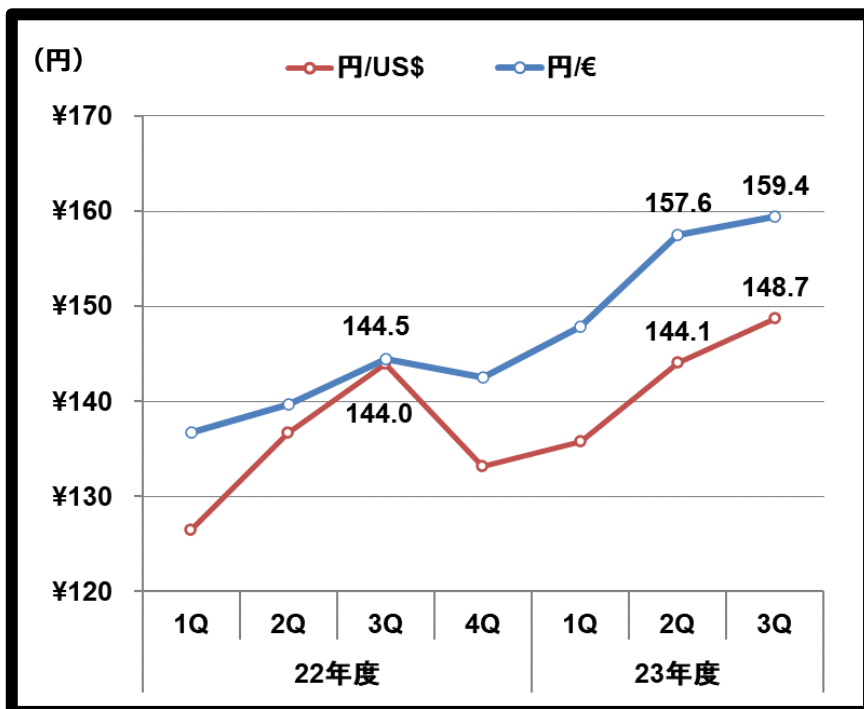
【エラストマー素材の概況】

- ◆ 合成ゴムの出荷は総じて堅調に推移し、QoQは増収増益
- ◆ 手袋向けラテックスおよび粘接着剤市場向け化成品の不調が響き、YoYは減収減益

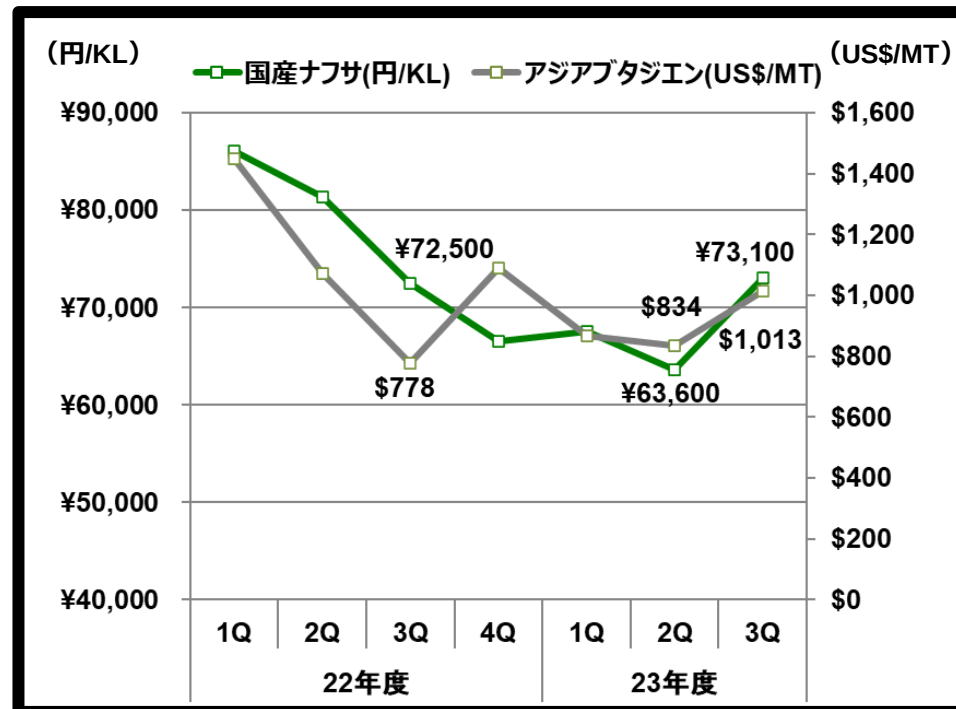
【高機能材料の概況】

- ◆ 高機能樹脂：出荷量増によりQoQは増収増益、光学フィルムの新生産ライン稼働開始に伴う原価増で、YoYは増収減益
- ◆ 高機能ケミカル：電池材料の出荷量増によりQoQは増収増益、化学品の需給バランス緩和の影響を受け、YoYは増収減益

【為替推移】



【主原料推移】



		2022年度 Q3	2023年度 Q2	2023年度 Q3	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥144.0	¥144.1	¥148.7	+3%	+3%
	円/€	¥144.5	¥157.6	¥159.4	+10%	+1%
主原料	国産ナフサ/KL	¥72,500	¥63,600	¥73,100	+1%	+15%
	アジアブタジエン/MT	\$778	\$834	\$1,013	+30%	+21%

※国産ナフサ：2022年度Q3及び2023年度Q2は確報値、2023年度Q3は当社見込値

P.3	総括とセグメントの概況
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.6	業績サマリー（全体）
P.7	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2023年度 事業環境
P.27	2023年度 業績予想
P.28	2023年度 配当金予想

(単位：億円)	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2022年度	2023年度	対前年同期
	2022年度 Q3	2023年度 Q2	2023年度 Q3	YoY 増減	QoQ 増減	Q3累計	Q3累計	YoY累計 増減
売上高	968	935	984	+16	+48	2,942	2,838	▲104
営業利益	77	33	65	▲11	+32	278	160	▲118
経常利益	67	47	69	+2	+21	311	199	▲112
当期純利益	9	45	105	+97	+60	183	209	+26

- 前年同期比 : 売上高 +16億円、営業利益 ▲11億円
- 前期比 : 売上高 +48億円、営業利益 +32億円
- 通期対前年度比 : 売上高 ▲104億円、営業利益 ▲118億円

注記：海外関係会社の2023年7～9月実績がQ3連結決算に反映されています。

2023年度Q3 業績サマリー (セグメント別)

ZEON

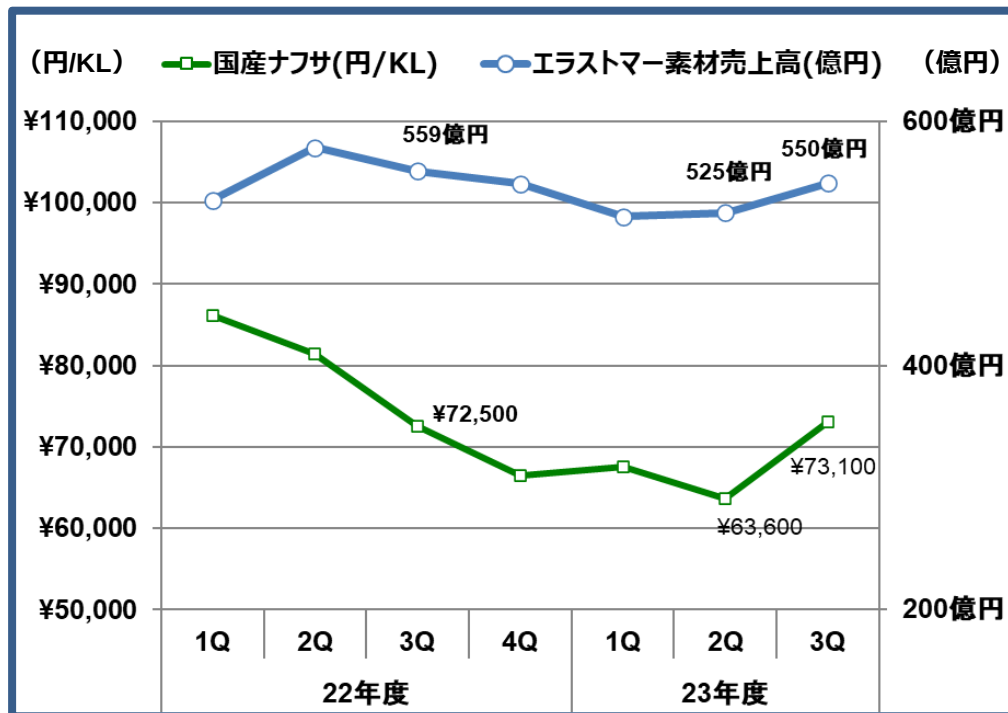
(単位：億円)

【売上高】	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2022年度 Q3累計	2023年度	対前年同期
	2022年度 Q3	2023年度 Q2	2023年度 Q3	YoY 増減	QoQ 増減		Q3累計	YoY累計 増減
エラストマー素材	559	525	550	▲ 10	+24	1,673	1,597	▲ 77
高機能材料	249	262	277	+27	+15	815	791	▲ 24
その他の事業、消去等	159	148	157	▲ 2	+10	454	451	▲ 3
売上高合計	968	935	984	+16	+48	2,942	2,838	▲ 104

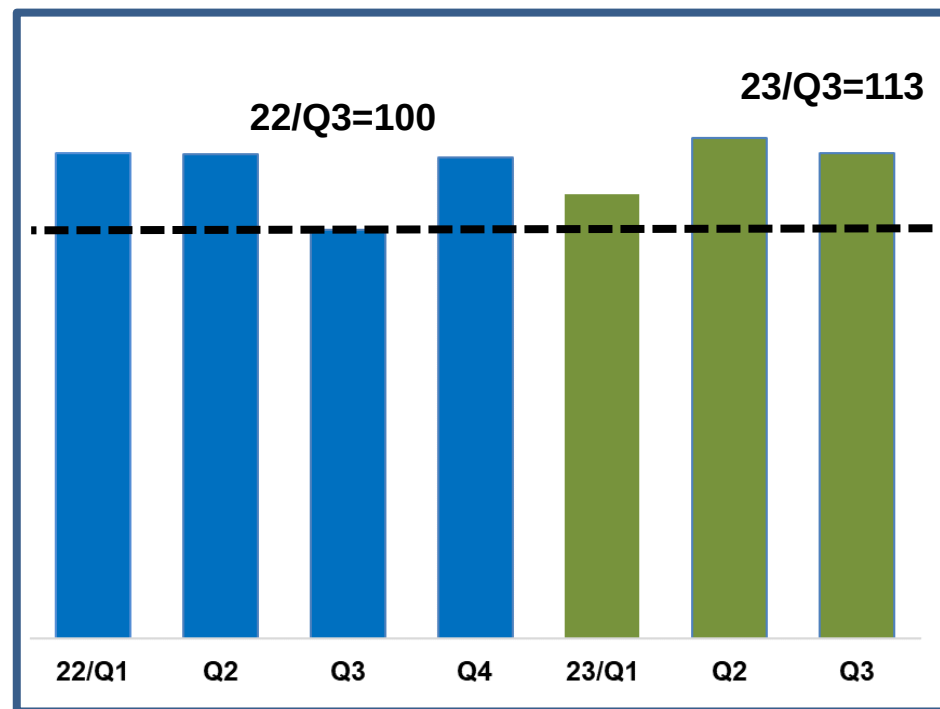
【営業利益】	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2022年度 Q3累計	2023年度	対前年同期
	2022年度 Q3	2023年度 Q2	2023年度 Q3	YoY 増減	QoQ 増減		Q3累計	YoY累計 増減
エラストマー素材	29	12	25	▲ 4	+13	122	62	▲ 60
高機能材料	49	26	36	▲ 13	+10	165	102	▲ 63
その他の事業、消去等	▲ 1	▲ 4	4	+5	+8	▲ 9	▲ 4	+5
営業利益合計	77	33	65	▲ 11	+32	278	160	▲ 118

P.3	総括とセグメントの概況
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.6	業績サマリー（全体）
P.7	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2023年度 事業環境
P.27	2023年度 業績予想
P.28	2023年度 配当金予想

【国産ナフサ価格とエラストマー素材売上高推移】



【合成ゴム出荷量推移】



- エラストマー素材の売上高はQoQで増加、YoYは手袋向けラテックスおよび粘接着剤市場向け化成品の不調が響き減少
- 合成ゴムの出荷は総じて堅調

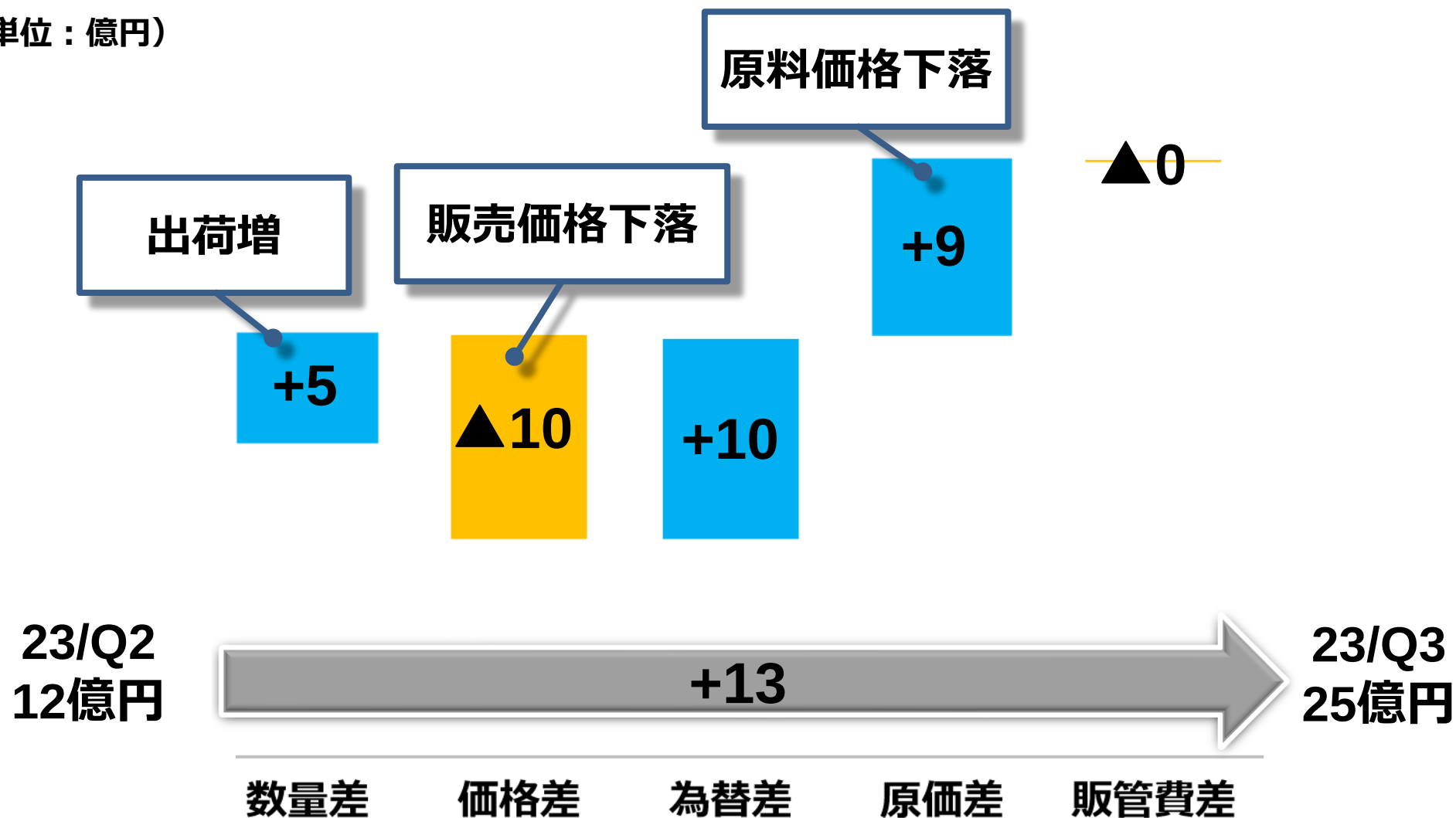
(単位：億円)

	2022年度 Q3	2023年度 Q2	2023年度 Q3	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
出荷量 (22/Q2=100)	100	105	108	8 pt	8 %	2 pt	2 %
合成ゴム	100	116	113	13 pt	13 %	▲ 3 pt	▲ 2 %
ラテックス	100	70	80	▲ 20 pt	▲ 20 %	9 pt	13 %
化成品	100	100	113	13 pt	13 %	13 pt	13 %
売上高	559	525	550	▲ 10	▲ 2 %	24	5 %
合成ゴム	413	405	420	6	2 %	15	4 %
ラテックス	35	25	27	▲ 8	▲ 22 %	2	9 %
化成品	98	82	90	▲ 8	▲ 8 %	8	10 %
その他・消去	13	13	13	▲ 0	▲ 0 %	▲ 1	▲ 4 %
営業利益	29	12	25	▲ 4	▲ 12 %	13	114 %
営業利益率	5%	2%	5%				

- 手袋向けラテックスは流通在庫が依然として余剰で出荷量は低調、化成品は出荷量増えるも、粘着剤市場は力強さを欠く
- 化成品の原価上昇分を価格に転嫁できず、エラストマー素材の営業利益はYoYで減益となるも、QoQは合成ゴムが底上げし増益

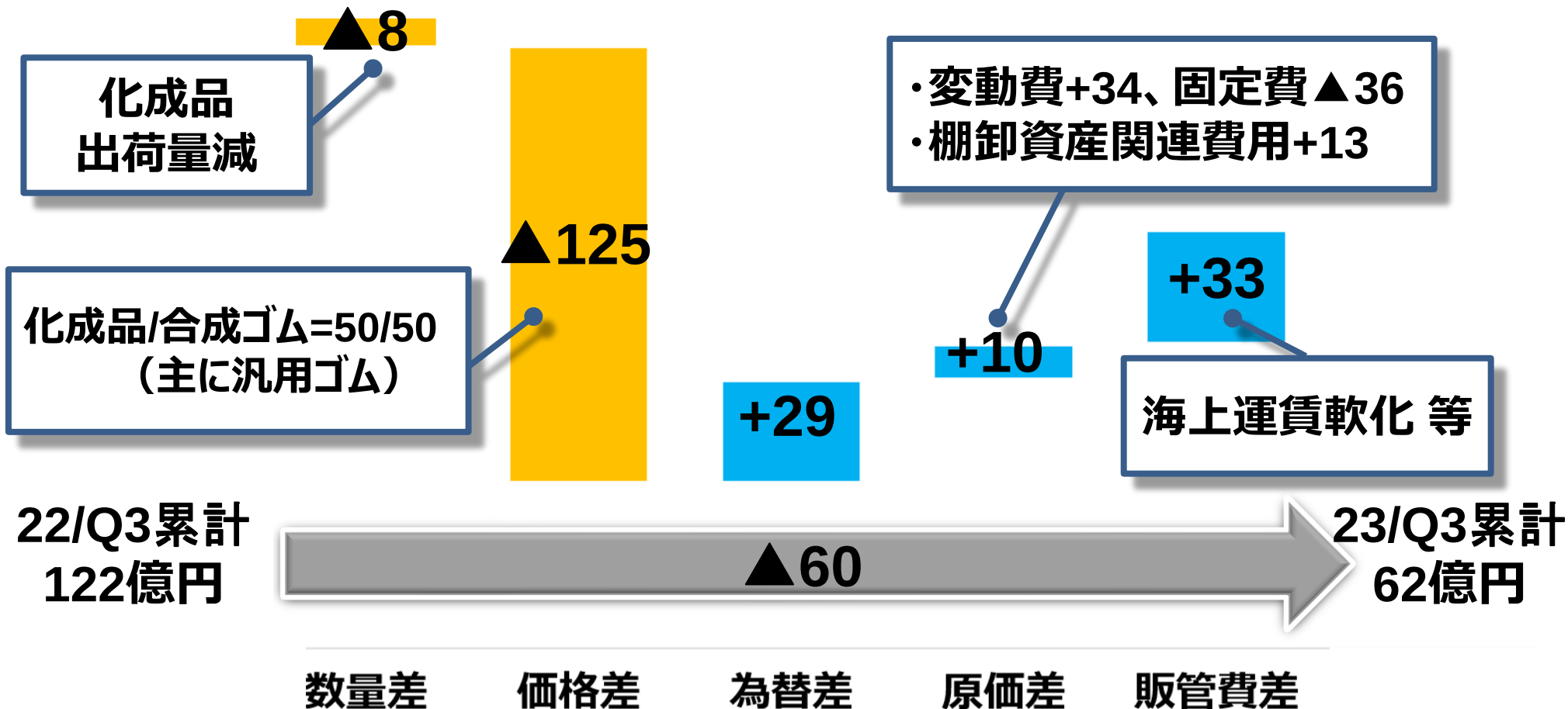
エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (QoQ) ZEON

(単位：億円)



エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異（YoY） ZEON

（単位：億円）



P.3	総括とセグメントの概況
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.6	業績サマリー（全体）
P.7	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2023年度 事業環境
P.27	2023年度 業績予想
P.28	2023年度 配当金予想

(単位：億円)

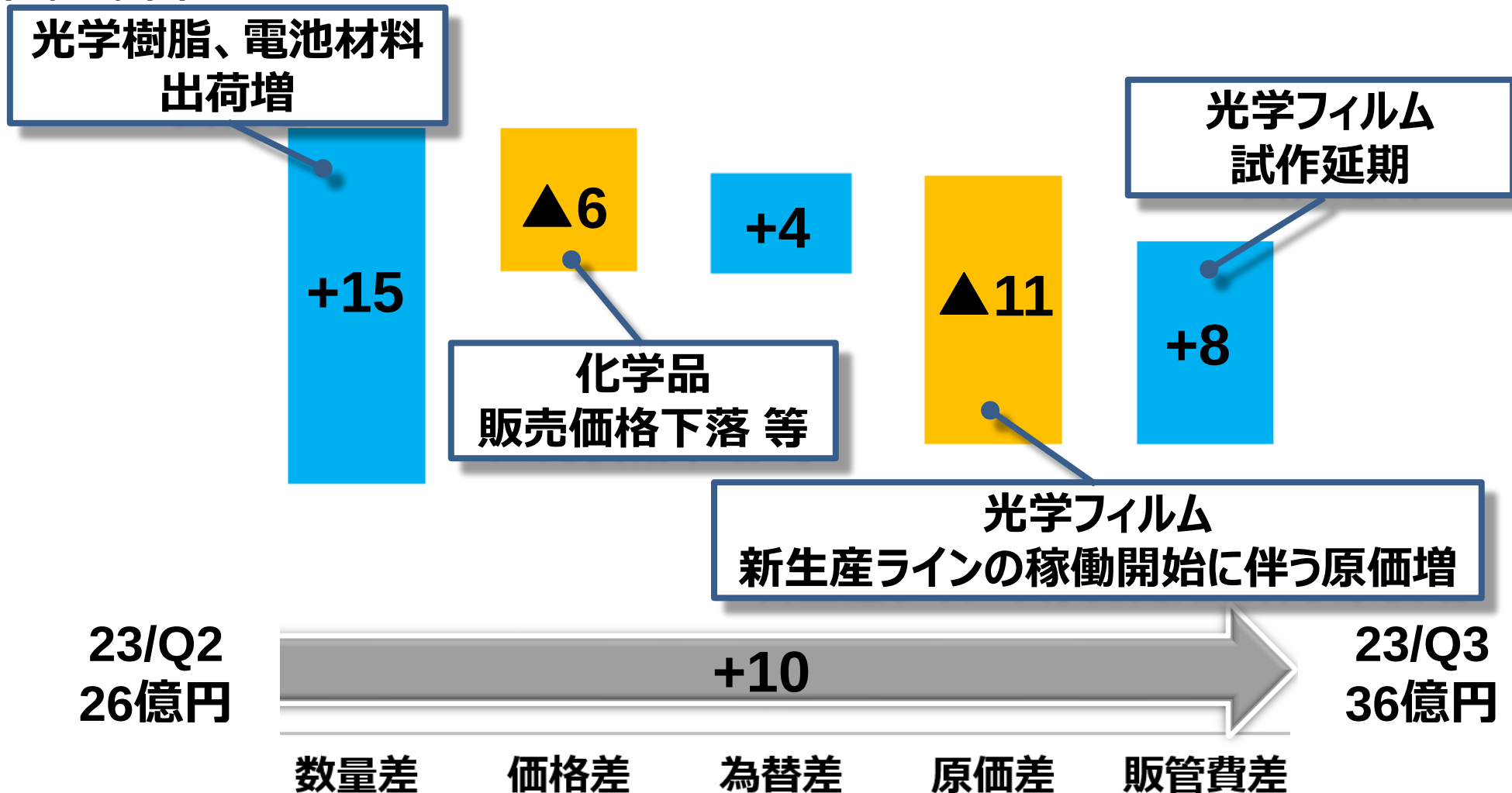
	2022年度 Q3	2023年度 Q2	2023年度 Q3	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	249	262	277	27	11 %	15	6 %
※ 高機能樹脂	141	163	165	23	17 %	2	1 %
高機能ケミカル	96	89	102	5	6 %	13	14 %
メディカル他	12	10	10	▲ 2	▲ 14 %	0	2 %
営業利益	49	26	36	▲ 13	▲ 27 %	10	39 %
営業利益率	20%	10%	13%				

※ 高機能樹脂 : 光学樹脂、光学フィルム
高機能ケミカル : 電池材料、化学品、電子材料、トナー

■ 高機能樹脂 : 出荷量増によりQoQは増収増益となるも、大型フィルム新生産ラインの減価償却費の満額発生および歩留まり改善が鈍く原価が悪化したことで、YoYは増収減益

■ 高機能ケミカル : 電池材料の出荷量増によりQoQは増収増益となるも、化学品の需給バランスが緩和し、YoYは増収減益

（単位：億円）



(単位：億円)

出荷減 等

▲29

光学樹脂、化学品
販売価格改定

+12

+20

▲42

新規開発費用および
間接部門費用配賦増

▲24

・光学フィルム新系列の稼働開始に伴う費用増
・エネルギー費用および定修費用高騰

22/Q3累計
165億円

▲63

23/Q3累計
102億円

数量差

価格差

為替差

原価差

販管費差

	YoY	QoQ	YoY累計
EV向け	120%	115%	104%
民生他向け	60%	79%	93%
全体	108%	110%	103%

■ EV向け

中国春節に向けた出荷前倒し等により、YoY、QoQともに出荷量増

■ 民生他向け

モバイル端末市場は緩やかに回復しつつあるも力強さはなく、YoY、QoQともに出荷量減

	YoY	QoQ	YoY累計
光学用途向け	93%	92%	92%
医療その他向け	133%	133%	104%
全体	122%	121%	101%

■ 光学用途向け

スマホ向け、セキュリティカメラ向けで復調の兆しが見えるも、出荷の端境期となり、YoY、QoQともに出荷量減

■ 医療その他向け

在庫調整が続く顧客もある一方で、一部顧客の需要増により、YoY・QoQともに出荷量増

	YoY	QoQ	YoY累計
中小型向け	112%	120%	83%
大型向け	193%	104%	157%
全体	170%	106%	135%

■ 中小型向け

スマートフォン生産開始遅れの影響でスマホ向けの出荷は落ちず、タブレット次期モデルの生産開始により、YoY、QoQともに出荷量増

■ 大型向け

ディスプレイ市場に緩みが見えるも、COPフィルムの需要は堅調であり、YoY、QoQともに出荷量増

P.3	総括とセグメントの概況
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.6	業績サマリー（全体）
P.7	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2023年度 事業環境
P.27	2023年度 業績予想
P.28	2023年度 配当金予想

総資産5,474億円（+245）

【流動資産】 +104億円

◆現預金 +154億円

◆売掛債権 +48億円

◆未収入金 ▲56億円

◆棚卸資産 ▲49億円

流動資産

3,070

(+104)

固定資産

2,404

(+142)

【固定資産】 +142億円

◆有形固定資産 +183億円

◆投資有価証券 ▲60億円

流動負債

1,636

(+30)

固定負債 241 (+11)

純資産

3,597

(+203)

【流動負債】 +30億円

◆買入債務 ▲32億円

◆その他未払金・未払費用等

+53億円

【純資産】 +203億円

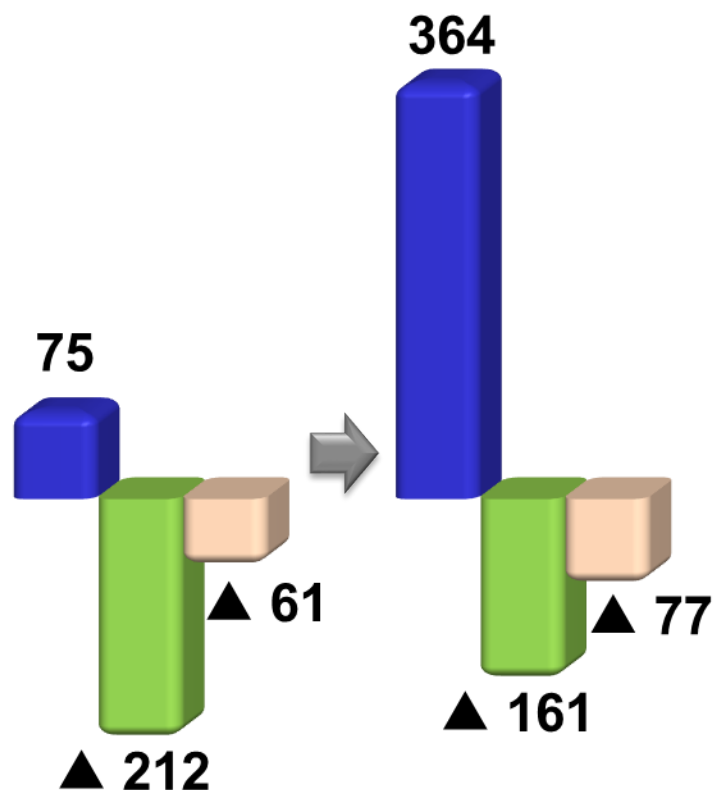
◆自己資本比率 65.1% (+0.8)

◆D/Eレシオ 0.08 (+0.00)

(単位：億円)

2022年度Q3

2023年度Q3



■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

(単位：億円)

	2022年度Q3	2023年度Q3
営業CF	75	364
投資CF	▲ 212	▲ 161
フリーCF	▲ 137	204
財務CF	▲ 61	▲ 77
CF	▲ 198	126

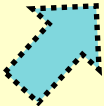
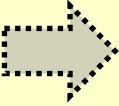
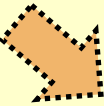
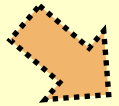
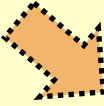
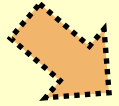
【営業CF】	+289億円
◆ 税前利益	+36億円
◆ 引当金	▲ 17億円
◆ 株式売却	▲ 110億円
◆ 運転資金	+366億円
◆ 税金	+48億円
◆ その他	▲ 33億円

【財務CF】	+16億円
◆ 借入・CP	▲ 141億円
◆ 社債償還	+100億円
◆ 配当金	▲ 14億円
◆ 自己株式取得・消却	+40億円

P.3	総括とセグメントの概況
P.4	事業環境（為替・主原料推移）
P.6	業績サマリー（全体）
P.7	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2023年度 事業環境
P.27	2023年度 業績予想
P.28	2023年度 配当金予想

		4Q		事業環境変化
エラストマー 素材 (億円)		売上 予想	営利 予想	
		523	11	
合成ゴム				需要は引き続き堅調 期末は間接部門費用発生増に伴う配賦額が増加
ラテックス				手袋向け需要低調が継続
化成品				出荷量、収益性ともに厳しい状況が継続

※4Qは10/27予想に対する変化

		4Q		事業環境変化
高機能材料		売上 予想	営利 予想	
(億円)		239	12	
光学樹脂				需要に大きな変化はなし 海外関連会社の販売期ズレ発生で営利は変化なし
光学フィルム				能登半島地震の影響により出荷減等
電池材料				EV向けについて中国電池メーカーを中心に在庫調整 が予定され、出荷減

※4Qは10/27予想に対する変化

1月31日時点の状況

会社 工場	セグメント	事業	操業状況	コメント
日本ゼオン 高岡工場	エラストマー素材	合成ゴム	通常運転	—
	高機能材料	電子材料	通常運転	—
	高機能材料	光学樹脂	通常運転	—
日本ゼオン 氷見二上工場	高機能材料	光学フィルム	一部停止中	順次復旧中
日本ゼオン 敦賀工場	高機能材料	光学フィルム	通常運転	—
ゼオンノース	その他	その他	通常運転	—
ゼオンメディカル 高岡工場	高機能材料	メディカル他	通常運転	—

(単位：億円)

【売上高】	年間予想 (10/27時点)	修正年間予想 (1/31時点)	年間予想 差異
エラストマー素材	2,110	2,120	+10
高機能材料	1,060	1,030	▲ 30
その他の事業、消去等	630	590	▲ 40
売上高合計	3,800	3,740	▲ 60

【営業利益】	年間予想 (10/27時点)	修正年間予想 (1/31時点)	年間業績予想 差異
エラストマー素材	69	73	+4
高機能材料	144	114	▲ 30
その他の事業、消去等	▲ 8	▲ 2	+6
営業利益合計	205	185	▲ 20

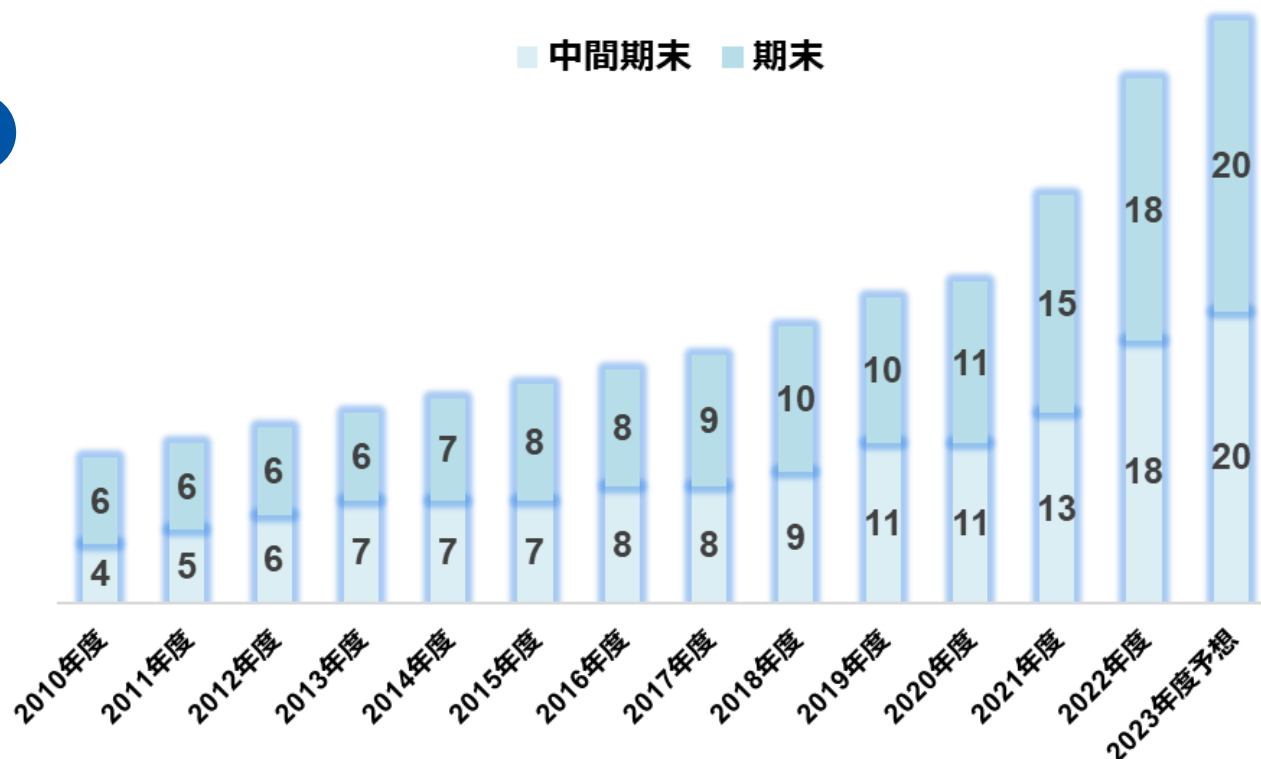
■ 売上高を3,740億円、営業利益を185億円に修正

4Q予想前提：US\$=142円、€=157円、国産ナフサ=¥67,000、アジアブタジエン=US\$900

【配当金予想、単位：円】

株主還元方針

- 安定的・継続的な配当を維持
- 配当性向30%以上を維持
- 自己株式の取得は
市況や資金需要等を勘案し
機動的に実施



■ 2023年度の配当金は中間20円、期末20円、年間40円予想を据え置く（配当性向は32%の見込）

■ 対前年度比＋4円、2010年度から14期連続増配予想

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

**2023年度
Q4決算発表**

2024年4月後半を予定

※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

ZEON
日本ゼオン株式会社

以 上

統合報告書
2023年度版は[こちら](#)

	2023年度Q3 (2023年度Q2比)			
事業	出荷	売上	営業利益	QoQ差異説明
合成ゴム				・出荷量はほぼ横ばい ・国内向け出荷が堅調となり、増収増益
ラテックス				・手袋向け需要は22年度並み ・コスト(販管費)削減により増益
化成品				・販売価格調整を実施し、出荷量と売上は回復 ・水島定修後の費用増により減益

2023年度Q3 (2023年度Q2比)						
事業	出荷	連結		単体 収益認識基準調整 なし		QoQ差異説明
		売上	営業 利益	売上	営業 利益	
光学樹脂						・出荷品目構成差により売上は横ばい ・出荷量増に伴い増益
光学フィルム						・タブレットおよびノートPC向け低調、海外子会社連結期ズレで売上は横ばい ・新生産ラインの稼働開始に伴う原価増により減益
電池材料						・出荷量増により増収増益

アップサイド

エンドマーケット需要回復の早期化

為替の円安化

在庫調整終了の早期化

円安ドル高

景気回復

円安ユーロ高

ダウンサイド

エンドマーケット需要低迷の長期化

為替の円高化

在庫調整終了の長期化

円高ドル安

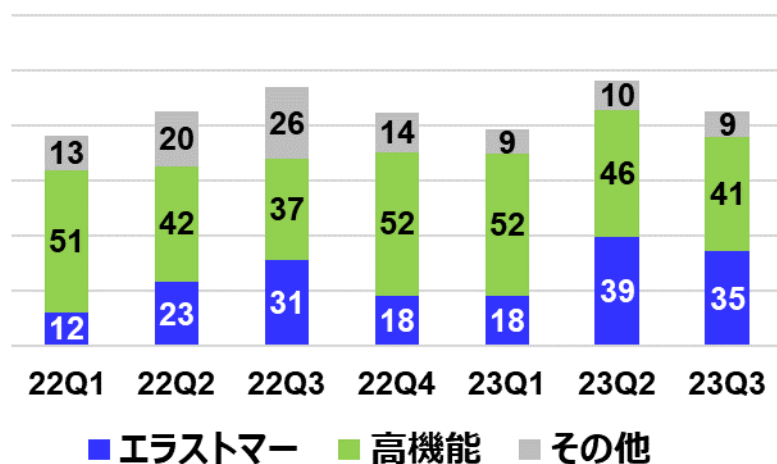
景気悪化

円高ユーロ安

参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

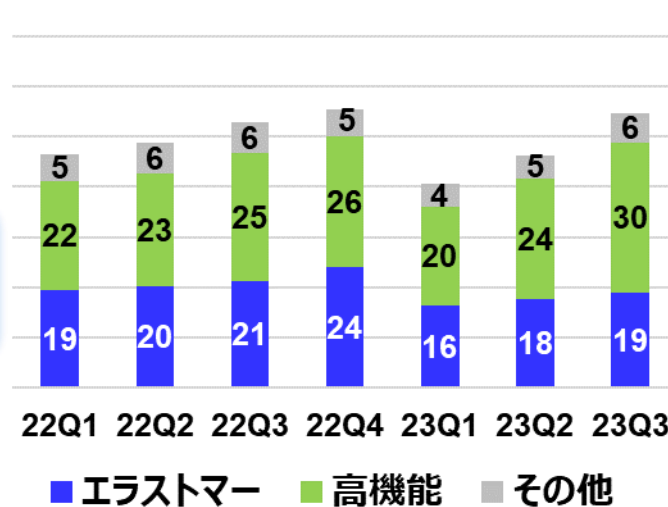
【資本的支出】



22年度実績
340億円

23年度予想
300億円

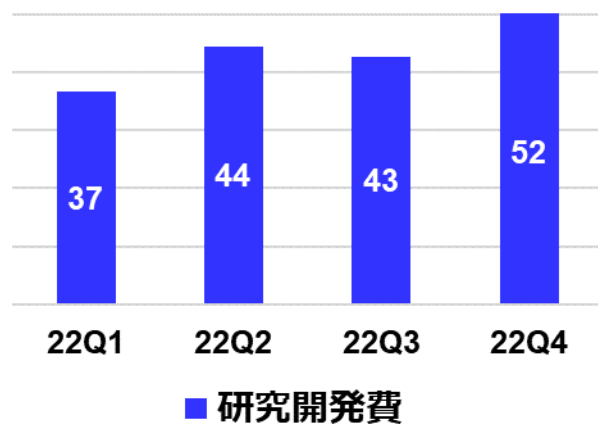
【減価償却費】



22年度実績
204億円

23年度予想
205億円

【研究開発費】



22年度実績
176億円

23年度予想
180億円

23年度予想額は2Qから変更なし